

並行在来線存続で活動交流

10日～11日、富山市で学習交流集会



第3回北陸新幹線並行在来線問題学習交流集会が、10日～11日、60名ほどの参加者で富山市内の富山観光ホテルで開かれました。この学習交流集会は、一昨年糸魚川市ではじまり、昨年は上越市の鶉の浜ニューホテルで開かれ、今回は3回目。来年は石川県で予定されています。

今回の学習交流集会は、五

県連絡会 北陸新幹線・並行在来線問題連絡会 が先に発表した並行在来線存続にむけた提言 サステイナブル・トレインへ向けた提言 の学習と、この間の各地での活動の交流が目的です。

各県の県議や元県議が、並行在来線をめぐる各県当局の動きなどを報告しましたが、今の状況がよくわかるものでした。2日目の各地の報告もすばらしい教訓にみちたものでした。特に感じたのは、新潟県内、その中でも上越三市連絡会の活動が群を抜いているということです。糸魚川市で住民組織が立ち上がり、妙高市でもシンポジウムを期に組織化が進んでいます。その教訓を受けて、全体として「地域住民による運動体づくりを進める」ということが合意されたと思います。市単位ではなく「駅ごとの組織化」というのは、上越市のような所にふさわしい提起だと思えます。まずは、直江津区駅、そして高田駅でしようか。

「将来都市像」はどうあるべきか

12日、総務常任委員会が開かれました。第五次総合計画が議題です。合併時の新市建設計画で定めた将来都市像と異なる「都市像」をもち出してきたため、継続して審議しているものです。今回出てきた修正案は「創造都市」の前に「共生」をつけて「共生・創造都市」としたものでした。ますます意味不明の都市像です。

私は要旨次のように述べました。

合併してまだ2年半です。合併時に決めた将来都市像を変えなければならぬ理由が見当りません。この都市像に向けて行うというところで合併したのです。計画の10年間は守っていくべきです。「議定数を減らせ」など、合併協定をないがしろにする動きがあります。ここで穴をかけたなら、計画全体を反故にする動きに対抗できなくなります。

修正案は、いかにも「言われたので付けました」といわんばかりです。

田村恒夫議員、吉田侃議員も新市建設計画の都市像を堅持せよと論陣をはりました。栗田英明議員も独特の立場から主張していました。頭城区の高森議員だけが明確に賛成

しました。だんまりを、決めたんだのは公明党でした。

日本共産党上越市議会議員 杉本敏宏の

市政レポート

2007年11月18日 No.165
発行・杉本敏宏事務所
上越市東本町5丁目1番38号
TEL 025(524)3787 FAX 025(524)3832